

『地域の産業経済や各産業分野の方向性や施策展開に対する提言』

平成 28 年 12 月 9 日 飯田市産業振興審議会

1 各産業分野における共通的な課題である人材に関する提言

(1) 人材確保

- 人材確保は各分野共通の課題であるが、単純に人数を増やすということでない。産業や企業に魅力があり、働きがいがあれば、飯田へ帰ってくると考える。
- 技術分野で人材不足の状況にある。やりがいのある仕事づくりが人を引き寄せると考える。
- 会社に入った後の自分のキャリアを描けない就職希望者、特に若者が多い。就職後のイメージを企業が与えることも必要である。
- 産業界が出資する奨学金制度の創設を要望する。奨学金制度に賛同する企業に学生が就職した場合、一定期間働くことにより奨学金の返済を免除するという優遇条件をつける。つまりは奨学金相当額を企業が肩代わりするという仕組みである。奨学金の財源づくりも含め、企業や金融機関などが連携協力した奨学金制度の研究や検討を要望する。
- 既存産業の魅力をも高めることも重要であるが、そのためには新しい人材を入れることが必要である。つまり、新たな研究開発とそれに関わる人材の誘致、そして、既存産業の調和によって、本当の意味での魅力が高められると考える。
- 空き家を学生寮として活用し、将来の人材となる学生の支援として無料で開放することを要望する。
- 今の若者は情報だけ集めて就職するというのではなく、インターンシップを重視している。I ターンの場合、インターン時に滞在できる宿泊場所の提供を検討すること。

(2) Uターン

- Uターンにおいて重要なのは、親の役割である。Uターンの推進においては、親と連携していく必要がある。
- 学生の地元への回帰状況が現在4割であるが、5割を目指し、取組の強化を要望する。
- Uターンのためのイベントなどを継続していく必要がある。また、実施にあたっては、各産業間の連携とバランスにも配慮が必要である。

(3) 人材誘導・移住定住

- 移住・定住希望者に対するサポートが不足している。市役所内部で横断的に検討しているというが、どのようなことに対応していくのかを明確にすることを要望する。また、総合的な取組を進めるときは、民間とも十分に連携していく必要がある。
- 飯田市以外の事例になるが、阿智村のスターウォッチングや大河ドラマ真田丸の上田など地域の良さが注目されることで雇用にも影響があった。また、地域が注目されることにより、子どもたちの地域に対する意識も変わり、将来のU Iターンにも影響してくると考える。
- 人材誘導のきっかけづくりとして、飯田市で開催される様々なイベントにおいて結いU Iターンの相談窓口を設けて、特に若者を対象とした相談や情報提供することを検討されたい。
- 若者の里帰りは土曜や日曜の休日が主である。結いターンキャリアデザイン室の休日開設を要望する。
- 結いターンキャリアデザイン室、ハローワーク、シルバー人材センターの3者が連携し、相談時において、どこでも同じ情報が得られるように情報を共有化する必要がある。

2 産業間の連携に関する提言

○観光×農業

農家民泊やネイチャーガイドなどで連携するとともに、新しいビジネスに対する側面支援を検討されたい。

○企業誘致×ワーキングホリデー

企業の社会貢献や社員教育の一環としてワーキングホリデーの活用を提案する。また、企業誘致でもワーキングホリデーをアピールすることは、地域の印象付けに有効と考える。

3 各産業分野の方向性や施策展開に関すること

(1) 製造業

- 飯田市は部品産業が強い、新しい産業づくりも重要であるが、投資やリスクもあるため、既存産業の付加価値を高めるための工夫や発展した部品や製品の創出が重要である。
- 企業誘致において、将来性のある人工知能など I T 企業や研究開発部門などをターゲットとして、トップセールスを含め推進していくことが重要である。
- 航空機産業など新たな産業形成においては、その基盤となる中小企業が重要であり、新しい加工技術など付加価値をつけることが必要である。
- クラスター形成は既存企業だけでは不十分である。研究開発部門の参加が重要となるため、その誘致を推進していく必要がある。

(2) 農業分野

- 自然や景観など農業以外の観点からも農地保全は重要である。しかし、荒廃した農地の保全について、農地以外への転用についても研究が必要である。
- 中山間地農業においては、有害鳥獣対策を十分にとる必要がある。
- 農業経営には、中心となる作物（果樹中心、野菜中心など）による営農モデル、流通や販売を含めた商業的な経営モデル、自給的な農業経営モデルなど、多様なスタイルがある。新規就農の参考になるよう営農モデルを示すことが必要である。
- 個人農家が流通に取り組むには経費がかかるため、コストが高い個別取引から集約配送できる仕組みづくりの支援が必要である。
- 農産物ブランドは、農業生産の維持のためにも必要である。飯田の農産物は優れているが、ブランド力は弱いため、高付加価値化を推進する必要がある。また、企業の O B 人材を活用した事業化を提案する。
- 市田柿は産地競争が少なく、収益が安定し、投資がしやすく、ビジネスに向けた農産物である。新規就農においてのアピールポイントになる。

(3) 森林・林業分野

- 定住人口の増加は、住宅建築に大きく影響し、住宅用木材の需要の増加は、それを供給する林業を活性化させる。第二の人生を伊那谷で暮らしたいと考える人を誘導することが有効と考える。
- 住宅や施設の建築において地元産材の利用を推進することが重要である。
- 補助金がなくても林業ができる仕組みづくりを研究していく必要がある。
- 飯田下伊那圏域で林業を振興することにより、飯田市の林業の発展性があると考えられる。
- 間伐の推進により森林が美しくなり、山に行きたいという気持ちになる。継続的な整備が必要である。
- 林地台帳整備において、所有者不在や所有者不明、管理困難や放棄など様々な問題や課題が想定される。特に、管理困難による林地の寄付について研究検討することを要望する。

(4) 観光業

- 流動人口を増加させるため、観光インフラの整備への支援の強化が必要である。
- 外国人の農家民泊の受入れが増加している。受入れ先の農家は平均 70 歳くらいであるが、温かく対応している。今後も継続し、次世代にまでつなげていきたいと考える。
- 観光分野以外の立場からの意見などが、観光振興にとって重要である。
- 広域的な取組により大きな人の流れをつくることが重要である。
- 人の集まるイベントというものは企画と宣伝が重要であるが、広告宣伝はホームページとブログでも十分に人は集まる。効果的な宣伝戦略をとる必要がある。
- 外国人の観光客の対応において、この地域に住んでいる外国人の協力の促進することで、地域の魅力が伝わると考える。

(5) 商業分野

- 空き店舗解消は商業振興の視点からだけではなく、中心市街地のあり方においても考えていくことが重要である。
- にぎわいを演出する流れを目的別にパターン化し、そのパターンに誘導するような仕掛けづくりを検討することを提案する。長野市では善光寺通りがご開帳に向けて道路を改修し、オープンカフェがたくさん並ぶようになった。このような場所が飯田には少ない。
- 地産地消を促進する仕組みづくりを提案する。例えば食品スーパーなどで地元産、県内産、県外や海外産と区別するマークをつけて販売し、「地元産を買いましょう」などと PR したらどうか。
- 地域内循環は、一人ひとりが地域のものを使うことを意識することで成り立つ。飲食店の利用においても地産地消を意識することが重要である。
- 中心市街地の再開発は、活性化を目的として官民共同で行ってきた。現在の中心市街地の小売サービスは、人出が少ないことにより厳しい状況にある。また、市役所りんご庁舎の来訪者も減っている。活性化に向けて、商業者と行政が連携・共同して取り組む必要がある。

(6) 金融・起業支援分野

- 飯田では起業しやすい仕組みがつくられている。起業しやすい一方、その事業が 5 年後に残っているかが問題である。起業時の事業計画どおりにならないことが通常であり、変化に応じて相談していく伴走型支援が重要である。
- 創業支援資金の利用が増加しているが、内容は飲食サービス店が多い。地域活性化や地域貢献につながるような事業者が増えることを期待する。
- 「チャレンジ起業相談室」を知の拠点構想の中に組み入れ、知の集積という場において、金融に限らず、行政や商工関係についてもワンストップで相談できることを要望する。

(7) 雇用・労政・人材誘導分野

- ※「1 各産業分野における共通的な課題である人材確保・人材誘導についての提言」に包括されるため省略。

3 その他

(1) 「いいだ未来デザイン 2028(案)」に関係した提言など

- 人口ビジョンの将来展望について、従前と同じ取組では実現は難しいと考える。画期的で夢を与えられるような施策を展開しなければ、若者に対して効果が出ないと考える。飯田市の行政は各分野で先進的な取り組みを行ってきた実績があり、実現できることを期待している。
- 飯田の魅力は自然、文化、人の心、そして、時間のゆとりだと考える。時間のゆとりが豊かなライフスタイルに結びつき、産業振興や地域振興へと発展していると考えます。
- 飯田下伊那地域の中核は飯田市である。飯田下伊那地域で将来ビジョンを共有し、周辺町村と連携した施策展開が地域の発展につながると考える。
- 生涯現役で活躍できることが重要であり、そのためには健康でなければならない。農業は生涯現役の産業であるとともに、食など健康にも大きく関わる産業である。
- 自己のライフスタイル実現においては、文化やスポーツ施設の充実を要望する。これらの施設は、勤労者や観光産業にも関わってくる部分がある。
- 地域に誇りを持つことは、産業振興や経済発展にも関わる。そのための教育が重要である。先ず郷土を知ることである。産業経済の発展に寄与した飯田出身の偉人も多い。

(2) 審議委員からの独自提案

- 商工会議所支部や市内 20 地区の自治振興センターが共同した飯田市版のポイント事業「(仮称)ムトポイント」として、地域通貨を組み合わせた制度の創設である。全国的に「健康ポイント制度」というものが広がっており、ウォーキングや運動会への参加など健康にいいことをするとポイント付与され、そのポイントと引き換えにより、血圧計や人間ドックの割引券がもらえるような仕組みの制度である。飯田市版としては、地区住民が考えた地域課題の解決につながる取組に参加した市民に対してポイントを付与し、たまったポイントは商工会議所等が発行する地域通貨に交換されるというイメージである。地域通貨が流通することで、地域の社会経済が活性化する可能性がある。まだ十分なスキームではないが、今後研究・検討を要望する。